「日々の理科」（第 2248 号） 2020,-9,-6

「月見草の開花（３）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

月見草の「開花の一瞬」を観察するには、上林が自分の庭で試したように、花のそばに座って、じっと開花を待つよりほかに方法がない。私は「タイムラプスビデオ」の撮影法を使って、開花の一瞬を記録しようと思った。

いくら「開花が速い」といっても、植物は動物のような動きはしない。私は「５分に１コマ」の設定で撮影すれば、少しずつ開く様子をとらえるだろうと思い、そのように設定した。しかしそれは失敗だった。

上写真は 17 時 42 分 37 秒のコマ。一番左のつぼみが咲きそうになっているのがわかる。

そしてこれが 5 分後の 17 時 47 分 37 秒のコマ。つぼみだった花が完全に開ききっていて、5 分の間にすっかり開花が終了してしまったとわかる。

翌日、今度は２秒に１コマの設定で撮影してみた。膨大なコマ数が必要だが、仕方ない。

これは 20 時 33 分 26 秒のコマ。右側のつぼみが今にも開きそうな状態だ。

2 秒後の 20 時 33 分 28 秒のコマ。わずか 2 秒の間に 4 枚の花弁が一気に開いている。まさに一瞬だ。

これが 30 秒後の様子。上林の「花の精」の中にある「月見草の開花の様子」は決して大げさな描写ではなく、ほんとうに一瞬で起きるものとよくわかった。